

## 徳島県総合計画審議会 会議録

I 日時 令和2年12月1日(火) 午前10時から午前11時45分まで

II 会場 万代庁舎10階 大会議室

南部総合県民局(阿南庁舎)2階 大会議室

西部総合県民局(美馬庁舎)2階 中会議室

III 出席者(委員44名中34名出席)

### 【万代庁舎】

(委員)

山中英生会長、金貞均副会長、中央子副会長、梯学委員、唐崎(檜)千尋委員、久米清美委員、小谷憲市委員、小林通伸委員、清水康代委員、瀬尾規子委員、高井正明委員、高橋啓子委員、田口太郎委員、近森由記子委員、林弘祥委員、福山徳委員、松浦ひろみ委員、松崎美穂子委員、松永好史委員、真鍋恵美子委員、三谷茂樹委員、宮本浩子委員、森本和代委員、山上敦子委員、吉尾さだえ委員、渡邊朋美委員

(県政運営評価戦略会議委員)

石田和之会長(WEB出席)

(県)

知事、政策監補兼政策創造部長、各部局副部長 ほか

### 【阿南庁舎】

(委員)

青木正繁委員、井上知美委員、大森千夏委員、坂口博文委員、齒朶山加代委員

(県)

南部総合県民局副局長 ほか

### 【美馬庁舎】

川原義朗委員、来田美晴委員、真鍋浩章委員

(県)

西部総合県民局副局長 ほか

IV 議題

- 1 会長・副会長の選任等について
- 2 県政運営評価戦略会議からの提言について
- 3 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の見直しの進め方等について
- 4 その他

<配布資料>

資料1 徳島県総合計画審議会設置条例

資料2 徳島県総合計画審議会部会設置規程

資料3 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の改善見直しについて

参考 県政運営評価戦略会議からの提言書

V 会議録

- 1 会長・副会長の選任等について

- ・委員の互選により、山中英生委員を会長に、金貞均委員及び中央子委員をそれぞれ副会長に選任した。
  - ・山中会長が、「未知への挑戦」推進部会、南部圏域部会、西部圏域部会の委員について、別紙（部会委員名簿）のとおり指名するとともに、「未知への挑戦」推進部会の部会長として金貞均委員を指名した。
- 2 県政運営評価戦略会議からの提言について
- ・県政運営評価戦略会議 石田和之会長から、令和元年度「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の評価結果について報告
- 3 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の見直しの進め方等について
- ・資料3に基づき、事務局から説明。

その後、意見交換が行われた。

(山中会長)

それでは、どなたからでも結構ですので、ご意見お願い致します。  
梯委員、お願いします。

(梯委員)

日本旅館協会の徳島県支部長をしております、梯でございます。冒頭、知事からもですね、G o T o トラベル事業のお話もありましたけれども、我々業界としましては、コロナが発生をして、3月4月5月と春のあたりは対前年度比で10%、また20%程度の数字でありましたけれども、県や国が色んな施策を打っていただきまして、夏には県民の割引ということで施策を行っていただきました。7月8月には5割程度に戻ってきておりました。また、国の制度として、G o T o トラベル事業が始まりまして、9月10月11月と、今現在7割程度ぐらいまで回復をしてきているのではないかなと。地域によっても、温泉地であったりとか、メジャーな観光地は100%以上といったところもあるんですけども、全体的に押し並べると7割程度なのかなと。また、このままG o T o トラベル事業というような形で、国民の皆様の移動を制約することなく、従来通りの形でいくとなると、きっと7割から8割程度に戻りになるのではないかなとっております。あとの残りの2割をどうするのかっていうのは、恐らくこれは地域の力の差だと思っております。8割程度までは国のG o T o トラベル事業など色んな施策で戻ってくるのだと思っておりますが、インバウンドを含めまして、あとの残りの2割は、地域間競争の部分がかなりのウェイトを占めてくるのではないかなとっております。知事が全国知事会長ということで、徳島県をどんどん全国へアピールしていただくという、これも非常に良い機会ではないかなとっておりますので、残りの2割をいかに徳島県として、観光という部分で需要喚起していくのかということに関しましては、この総合計画の中で、かなり力を入れていただかなければいけないのではないかなという部分ではあります。ですので、この総合計画にも記載がされているコンベンションやインバウンドなどは、2年3年という形で時間をかけて、回復をさせていかなければいけない部分であろうかと思っておりますので、このあたりの部分に関しまして、少し県などの補助的な部分で、地域間競争にいかに打ち勝っていく

かという、残りの2割の部分が徳島県の実力がかかってくるのではないかなと思っておりますので、我々業界が当然、先頭を立ていかなければいけない部分ではあるんですが、皆さんに後押しをいただきながら、少しでも回復をして、最終的には100%ということではなくて、以前に対して2割3割という形でアップしていければ良いと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。今回リモートによって、人の移動がどんどん減ってまして、交通の分野から言うと、こういう形で本当に人の移動がどんどん減るんだろうかと。歴史的に見ると、実は移動というのは減ってないんですね。電話ができて、テレビができて、実は移動はどんどん増えてますので。実は戻って来るのではないかと僕は期待はしてます。是非、その時に魅力ある場所になっていただいて、是非戻っていききたいといった場所にしていききたいと思ってます。

次に、久米委員をお願いします。

(久米委員)

徳島県身体障害者連合会の久米でございます。在宅障がい者のコロナ対応についての提言を申し上げたいと思います。今年1年はどうもコロナに始まり、コロナで終わりそうな感じがいたしますけれども、コロナ対策につきましては、県の職員の皆さん方も、昼夜を問わず対応されていると思いますけれども、県民の一人として感謝を申し上げたいと思います。

在宅障がい者の家族は、「私がコロナに感染したら、うちの子はどうなるんだろうか」、こういった不安の声がよく聞こえてくるんでありますけれども、私どもの団体も眉山園、小星園という2つの障がい者施設がございますので、十分に県と連携しながら、コロナ対応にこの2つの施設を県の方でもご活用いただけたらと思いますので、ご提言を申し上げます。以上です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。障がい者に対する目線を忘れないようにしたいと思います。

山上委員、お願いします。

(山上委員)

徳島県医師会の山上でございます。本当に先程からずっとコロナの話ですが、コロナに関する連日の報道により、感染者の急増で容易に医療提供体制が崩壊の危機に瀕するということは、ご承知のとおりかと思えます。徳島でも、8月には末端の私が経験しただけでも、外科手術の延期、それから本来なら入院手術をしているものを日帰りにするといったことにも出会いました。また、大学の医師が外勤できないということの影響も受けました。医療提供体制の整備としましては、医師会でもドライブスルーによる地域外来検査センターや宿泊療養施設の運用をしております。11月9日からは季節性インフルエンザ流行

期に向けた、発熱患者等の相談・診療・検査できる体制の整備として、診療検査協力医療機関として、約290の民間医療機関が協力しております。県内の民間医療機関は各科合わせて630弱ですので、協力率は大変高くなっております。また、休日夜間の電話相談、これも保健所の負担を減らすということで、休日夜間の電話相談に関しましても、医師会の先生方のご協力で、全県で12ヵ所が開設されております。このように体制は整えてきているんですけども、先日、医師会の先生から伺った話なんですけど、発熱があるため、子どもさんが患者として来られたらいいんですが、念のために検査しましょうとお勧めすると、子どもは「うん」と言うんですが、保護者さんが拒否されるということがあったようです。もし陽性だった場合の、学校での差別などを不安に感じてのことではないかと思うんですが、やはり検査しないということは感染拡大のリスクになります。それで、10月16日に徳島県でも施行になりました「徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例」で、差別的取り扱い等の禁止が大きく掲げられておりますが、これをより具現化するために、例えば鳥取県では、県、弁護士会、県警本部と地方法務局が連携して、「差別的扱いや誹謗中傷から陽性者等を守る共同行動宣言」というのに署名をしたという取組がありまして、これが抑止的効果となって、ネット等での誹謗中傷が少なくなったと聞いております。ということで、徳島県でもこのような取組はいかがかと思えます。本当に皆で感染を拡大しないようにして、人権も尊重される、やはりそういった住みよい徳島というのに、取り組んでいけたらと思えます。以上、ご提言です。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。大変重要なご指摘いただきました。おっしゃるように、感染症への感染は、我々にとっては災害で、決して罪でも何でもないと意識が大変重要だなと思っております。

他にいかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

(高橋委員)

四国大学の高橋と申します。本当にコロナの大変な状況の中で、4月から大学でも授業をオンラインに切り替えるといった急遽の様々な対応で、非常に混乱した時期ではありました。しかし、逆に考えて、ICTの機器やWi-Fi環境などが整っていれば、わざわざ大学に出てこなくてもいいんだという逆の発想もあり、学会などはほとんどが中止になったんですが、ある時期からZoomなどで、研修や学会をやるといったことが起こりました。

やはり、学生が授業を受ける、その教育の平等といったところから考えると、最初に授業が始まった時は、ほとんどがスマホでやっていました。それで、パソコンがない、タブレットがない、Wi-Fi環境がない、といった家庭も結構ありました。そういったところで、それをどう大学がカバーするのか、それとも行政がカバーしてくれるのかといったところも課題ではないかなと。この提言書の中にも、8ページに「ICTを活用した遠隔授業の平等」や「オンライン授業の生徒の学習意欲の学びの差が生じている」といった色んなことが記載されています。今、徳島県は5Gの推進などに取り組まれていますので、是非、遠隔授業など、先進的な模範になるような取組が施策としてあがってきてくれるととても嬉しいなと思いましたので、発言させていただきました。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。渡邊委員、よろしくお願いします。

(渡邊委員)

私は、神山町の元サテライトオフィスで仕事をしております。元というのは、8年前に大阪からサテライトオフィスを構えて、4年前に大阪事務所は閉じ、完全に徳島に拠点を移しております。コロナ禍において、やはり移住やサテライトといった取材、求人への応募や問い合わせが非常に増えてきているという現状があります。私達も人材の確保などは、常に課題がありまして、非常に前向きに考えたいところではあるんですけども、なかなかその支援などが、建て付けがやはり大きいところには届いていないといったような実感があります。移住をして結構堅実に頑張っている個人であるとか、中小の事業者はすごく増えてきていると思うので、そういったところまで、きちんと支援が届くような仕組みというのを、もう少し細かく見ていただければなど日々感じております。

(山中会長)

どんな支援が必要なんでしょうか。

(渡邊委員)

そうですね。やはり、基本的には人を受け入れるということになるので、当面の資金などが一番大きいかなとは思いますが。マッチングに関しても、来たい人はいる、受け入れたい気持ちはある。ただ現実としてそれを進めていく力がないといった部分を、色んな形で補助というか、助けていただいたりであるとか、何かあればなど感じてます。

(山中会長)

移住のマッチングは、県も頑張ってやっけていただけてますけども、特に神山町なんかは先進的ですけども。おっしゃるような一つ一つのケースでは色々な問題が起きて、教育やら仕事やら家やらっていう形で、全てマッチング、全て揃えないとなかなかうまくいかないと。それ全部1人でやっていると大変だっていうことで、やはりその周りで支援する人が重要ですよ。

(渡邊委員)

言葉を選ばずに言うと、どうしてもそういった申請が上手なところなどに集中してしまっている現状が正直あると思うんですね。ですので、やはりもう少し広く感じています。

(山中会長)

そういったものも情報ですよ、どのように申請すれば、どういった支援がもらえるかといったことも。ちゃんとフォローしてくださる人がいるかどうか。

(渡邊委員)

情報が届いてないというのもあると思います。

(山中会長)

おっしゃる通りだと思います。ありがとうございます。  
他いかがでしょうか、では、真鍋浩章委員。

(真鍋浩章委員)

西部県民局から参加させていただいております、真鍋です。よろしくお願いします。2点なんですけれども、1点目は先程のお話と重なる部分があるんですが、今コロナの影響等でリモートや新しい生活様式が取り入れられる中で、やはり移住といったところが、すごく今、県西部においても色んな話が出ています。その中で、移住施策を推進していただきたいという話なんですけど、推進する中で、県南部にしても東部にしても、西部にしても、色々なマイナースポーツであったり、旅行に来られた方、そして住まわれるにしても、本当に色んな趣味や楽しめるスポーツなどが、すごくたくさん充実しているのが実情だと思います。そういったものを掛け合わせながら、やはりワーケーションといったところが今話題になってますけれども、徳島県として推進することで、移住に対して裾野をもっと広げていただけるような施策を、もっともっと取り組んでいただきたいというのが1点です。

もう1点は、昨年、にし阿波で花火大会が開催されました。徳島県は、西日本の方でも、花火の生産量が多いということは、僕らもあまり知らなかったところでもあります。昨年、そういったことに着目して、青年会議所から「やりたい」と手を挙げて開催されました。今年はコロナの影響で、開催されなかったんですが、来年以降、これを1つの大きな魅力として育てていくために、2回目3回目と継続して行っていくように、県としても、再来年の支援をお願いしたいと考えています。以上です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。県西部や県南部では、趣味を持って移住して来られたという方、それでも実際に移住しようとする先程のような話がでてきてですね。それをどうやって支援していくのかというところが、恐らく実際に来てもらえるかどうかの鍵になってるということだと思います。ワーケーションができるような場やスペースなど、色々作っていただけていますが、そういったことも含めて色んな取組を進めていただきたいということですね。

花火は、西部でも盛んなのですね。小松島市ではたくさんやっていただけてますけども。こういったものも、地域資源として打ち出していきたいということです。

他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

(小谷委員)

自主防災組織の小谷です。いつもお世話になっております。自主防災組織というのは、町内会ですので、町内会の方で、少しこれから先のことで考えていただきたいんですが、今、高齢者の方が徳島市内以外は多いんですが、体調を壊して病院や施設に入ってる方が

たくさんいらっしゃいます。町内会の集まりがあった時に、若い人が見舞いに来てくれたり、家族が看病に行こうと思っても、コロナの影響で、病院などの関係もあり難しいとは思いますが、今は面会できるのが、平日の昼間だったり、日曜日でも昼間しか面会できないと。そして、働いてる若い世代の方、県外からおじいちゃんやおばあちゃんにちょっと会いにと考えて帰ってきても、ほとんどが会えないというのが現状のようです。タブレットや携帯電話で話しても、やはりお年寄りの生きがいというのは、孫に会ったりとか、手を握ったりとか、そういったことが生きがいになるので。どうにかコロナが収まればいいのですが、少し難しいと思います。全体として、医師会も含めて病院や施設などが、どうにかできるのであれば、もう少し夜に会える方法であるとか、難しいとは思いますが、何か方法があればと感じています。やはり徳島は若い人より年配の人が多いため、どうにか年配の人達の生きがいとしても、なにか考えていただける方法がないのかと思います。

また、今の若い世代の方に関する事で、コロナの影響で、県外の就職を目指していたがだめになり、とりあえず急いで県内の私立の大学を受けられたり、おそらく県内の私立大学は今年募集しているより多くの方が受験されていると思うんですが、それイコール4年後の就職について、皆さん心配されています。1つのチャンスとして、徳島県でどこまでの数字というのは大変失礼ですが、私も理解できておりませんが、私の周り、町内会や県下を回った時に聞く関係では、どうもそういったことで非常に今回、高卒の方がチャンスがなくて、こういった言い方をすると失礼ですが、家庭が許せるならということで大学進学した。そうしたら、せつかくのチャンスですので、卒業をする4年後に、受け皿があれば、徳島県内で就職していただけるかもしれないということで、4年後のことを考えて、何か対応していただけたらと思うんですが、これはもう長期になると思いますけれど、よろしく願い申し上げます。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。大変重要な課題について、2つご意見をいただきました。大学の方では、県内の高等教育機関が連携して、私どもの大学が中心になって、徳島に残っていただけるような学生を育成していこうということで、取り組みを始めています。この5年間進めてきましたけども、さらに今年からまた文科省の支援をいただきまして、中心となってやっていこうということになっています。徳島大学に来ていただいて、一緒になって企業の方と会っていただくといったようなプロジェクトも始めますので、是非皆さんお知り頂ければと思います。

他いかがでしょうか。田口委員、お願いします。

(田口委員)

徳島大学の田口と申します。先程のコロナやITなどにも関係する話なんですが、今、国勢調査が終わって、来年速報が出た時に、おそらくかなり人口減少の現実が出てくることを考えると、やはり1人1人の生産性をどう上げるかということをごどこかで考えなくはいけなくて、その時に、今もう一つは全国的に移住や関係人口という議論が、盛んに行われていて、私も少し関わってはいるんですが、不足する人材を外から呼んで来ようという雰囲気非常に強いです。ただ、もっとその前に、やはり内部の人材をきちん

と育てるような仕掛け作りがおそらく重要で、他のテレワークが進んでいる地域を見ていくと、地元の働き方改革も含めて、子育て中のお母さん方にきちんとした仕事のスキルを提供して、それで逆に営業もして仕事をとってきて、子育て中のお母さん方がちょっとした時間で仕事をしてしっかり収入を得るといったことができるようなソフトの基盤を整備しているようです。1つの自治体ではなかなか厳しいところがあるので、やはり県ぐらいの単位で、人材育成と仕事をとってくるといった仕掛けをしていく。それで、人材育成も単純に働き方だけじゃなくて、企画できる人材みたいなものが、特に地方では不足しているという印象がありますので、やはりそういった部分の人材育成を、今はどうしても企業や組織単位で動いてるんですが、一般向けにもどんどん作ることによって、内部のヒューマンリソースを上げていくことが重要ではないか思いましたので申し上げておきます。よろしく申し上げます。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。実際に今、子育て中の女性の方の色々な意欲は高まってまして、大学でも「まちしごとファクトリー」といった取り組みを行ってますけれども、新しいビジネスを始めたいっていう方は、大半がそういった方々です。ですので、本当にそういった方々のスキルを上げて、実際に色々な形で活躍していただくような、しっかりとした支援といったことが大変重要だと思ってます。

他にいかがでしょうか。唐崎委員、お願いします。

(唐崎委員)

文化の分野から参加させていただいております、唐崎と申します。よろしく申し上げます。本当にこの状況の中で、文化とは何だろうということをとってもよく考えております。結局、文化というものは目には見えないし、デジタルもしづらいし、経済が大変な中で、文化がどうやって、何が必要なんだろうということは、本当にこの1年間、身に染みて感じております。先程から地域間競争、コロナの中での面会や、移住の方からの問い合わせ、また色々な人材育成などのお話を聞きながら、やはり文化というのは、全ての下支えになるものではないかなということを改めて思いました。その中でどのように、コロナの中、萎縮する中で、生きる喜びとして、文化が徳島の中で息づいていくんだろうということ、具体的にどうこうできるということでは今はないんですが、答えがすぐ出せるものでもないんですが、努力をしていかなければいけないと。文化を忘れない、喜びや笑顔を忘れないように、何が文化の中から出来るんだろう、人が集まってはいけないとか、でもタブレットだとやはり感じにくいものがあるといったことなどを含めて、何をしていかなければいけないかということ、痛切に改めて感じさせていただきました。諦めずに努力はしていきたいと思えます。

あと、知事にご決断いただいた県立ホールですが、本当に目に見えるものとして文化の集約できるものというか集まれる場としてホールがあるというのは、文化に関わってる人にとっては、文化を感じてもらって喜んでいただける場に、色々な方が集まって来られる場になれば、とてもありがたいことだなと思っておりまして、楽しみにしております。ありがとうございます。

(山中会長)

はい。本当にそうですね。バーチャルな色々なゲームなども文化になりつつあるんですけども、おそらくあれだけでは済まなくて、結局集まってくる場所が必要になって、リアルな場というのが出てくる。全てそういったことが相互に広がっていくのではないかなって思っています。三密回避というのは、おそらくそんなに簡単に続かないだろうと思っています。どこかで皆さん、ふっとふっきれてくるのではないかなと思っていますので、是非頑張ってください、リアルな場を作るといったことに取り組んでいただきたいなと私も感じているところです。

他いかがでしょうか。林委員、どうぞ。

(林委員)

社会福祉法人悠林舎の林です。よろしく申し上げます。私どもの施設で、障がい者支援を行っているのですが、私どもの法人や眉山園さんなど、障がい者の方がなにかクッキーやパンなどを作ったり、また作業を受託して、工賃を利用者の方にお支払いするということをしております。徳島県は、知事はじめ非常にバックアップしていただいて、全国的にも高い工賃になっているんですけども、やはりコロナの関係で、今まで対面で販売しているのが比重を占めていた関係で、対面販売が縮小してしまったり、障がい者の方にまわってきた仕事も、コロナの影響で縮小してしまっているといったところがございます。利用者の方も行動制限をされて、やはり入所の方は、コロナが一度入ってしまうとクラスターになるということで、外と交流する機会も減っていったりしています。そういう中でeスポーツであったり、ICTを使うと、他の方との交流であったりとか、また販売にもすぐつながっていくということで、補助金等も作っていただいて、今導入はしていています。しかし、やはり支援員は、福祉に関しては専門的な知識があるんですけども、なかなかICTの知識っていうのには少し乏しいところがあります。我々もICTなどに長けている人材を入れたりしながらはいつてるんですけども、全般的に福祉施設は弱いところがございますので、人材のご協力であるとか、また、学校ではGIGAスクールという形で、タブレットだったりICT化を進めていくと思うんですけども、支援学校とかですね、障がい者の方もICT分野が実は得意な方も、そこを伸ばすとすぐ伸びる方もいるのではないかと肌感で感じますので。そういった基礎があると、また施設に入った時により工賃につながっていくこともあるのではないかと思いますので、是非そういったところもご検討いただければと思います。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。障がい者支援の中にも、DX化であるとか、人材を育てるような教育などが、大変重要だというご意見を伺いました。

他いかがでしょうか。清水委員、お願いします。

(清水委員)

宮建築設計の清水です。よろしく申し上げます。建築の方では、なるべく空調を使わな

くてよい建物や、再生資材の採用などを積極的に考えています。

この度は、一般の消費者という立場から、スーパーマーケットでの紙パックやビニールトレーの回収についての提言をさせていただきたいです。ゴミ袋が有料化され、紙パックやビニールトレーの回収BOXなどがスーパーマーケットに設けられています。しかし、紙パックは切り開いて洗って干して、ビニールトレーも洗ってから、リサイクルに出さないといけないと思います。私は3人の子育てをするワーキングマザーで、毎日ドタバタという感じで過ごしています。私にとっては、このリサイクル前の一手間が大きな負担で、これらがたまりがちで遂にゴミに出してしまうこともあります。また、くるりポイ問題と言って、スーパーマーケットでレジ後買ったものをすぐにトレーから出して、トレーを捨てていくという人がたくさんいるらしいです。私はこれを問題とするのではなく、是非、スーパーマーケットの方で、その場で洗って回収してもらえないかと思います。県から回収業者への補助などを行うことで、この洗うなどの手間を、回収業者の方でしていただけないかと思います。小泉環境大臣も楽しく環境問題に取り組むということをおっしゃってられると思います。是非、消費者のこの一手間のハードルを下げてください。リサイクルの回収率もかなり上がるのではないかと思います。よろしくお願いします。

(山中会長)

なるほど。洗わないといけないんですね。中副会長、いかがですか。

(中副会長)

スーパーマーケットの前で集められている透明や白色のトレー、ペットボトルや缶とか、全部事業者の方がちゃんと次も新しい製品にしたり、今、新しくリサイクル出来るようなシステムになっていると思います。工場の見学も出来ますので、是非見に行かれたら。全部が全部捨ててしまってる、焼いてしまってるということではないんです。

(清水委員)

その回収に出すために、消費者が家で洗わないといけないと思うんです。

(中副会長)

それぐらいはしましょう。

(清水委員)

それがなかなかできないんです。

(山中会長)

我々の生協では、フィルムのようなものが付いていて、フィルムを剥がすと、トレーの方は洗わなくて回収できるといったことをやっていただいています。多少高いんですよ。そういったものを使っていれば、少しでも楽になれますけどね。

続いて、真鍋恵美子委員、お願いします。

(真鍋恵美子委員)

SDGsの中にあります、女性活躍の件で、話をさせていただきたいと思います。徳島県におかれましては、管理職員の女性比率の向上であったり、こういった審議会も半数が女性ですし、本当に進んでいる県だなと思っております。しかし、民間におきましては、まだまだ女性の管理職であったり、女性の役員であったりっていうのが、私が税理士として、たくさん会社を見ているのですが、本当に少ないなという印象でありますので、私達もこういった審議会に出席させていただいて、色々お声掛けさせていただいて活躍の場が広がるというのがあります。それで、民間においても女性管理職が多い会社を表彰する制度などを徳島県で考えていただいて、できるだけ民間でも、女性の管理職や役員を増やしていかなければいけないという意識づけを経営者の方などにしていただけるような、周知するような機会を作っていただけたらと思います。これからESG投資、女性に限らず、ジェンダーやグローバルなど、そういった多種多様な人材を育成している企業に投資やお金が集まるようなことに今後なっていくと思いますので、そのあたり民間に対しても力を入れていただけたらと思います。以上です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。本当にそうですよね。先程もありましたが、我々は女性の力を非常にもったいないことしているなという感覚をしています。大学でも、もっと色々と活躍していただきたいのになという感じがしています。是非、皆さん、そういったことに気がついていただけるようになるといいなと思っています。

他いかがでしょうか。それでは、三谷委員。

(三谷委員)

県JA中央会の三谷でございます。先程のリサイクルの発言に関連して、環境問題になるんですが、本県農業、特にですね、洋にんじん、ハウスすだち、みかん等々、ビニール。農業用のビニール・プラの関係で、先般、中国が産業廃棄物全面輸入禁止と、実はビニールなんか既に止まっているのですが、全国的にその処分量が高騰しております。実は、本県は民間の会社、JAグループ一体となって、廃プラ協議会で一体となって、回収して、環境問題対応しているんですが、今年度、実は値上がりしたものを、なんとか積立金で補填してですね、農家の方の値上りを防いでいるのですが、それもすぐに枯渇するというところでございます。昔のように、夜中に吉野川界限で火があがったり、四国山脈での不法投棄といったことは絶対避けるべきでございますので、ひとつその面、環境問題に対して、農業分野で特に大きな課題になっておりますので、またご考慮、協力、ご指導いただきたいということでお願いをいたします。よろしくお願い申し上げます。

(山中会長)

かなりの量が出るんですか。

(三谷委員)

徳島では、洋にんじん、吉野川の堤防を走っていただいたら、一面ビニールハウスとい

うようなことをございまして、非常に量は多いということです。

(山中会長)

何か活用する方法を考えるのでしょうか。

(三谷委員)

今も全て再処理まわしております、今のところ、本県は全国的にも非常に取り組みは評価はされておりますが、処分費の高騰というのが大きな課題となっています。

(山中会長)

処理には、かなりの費用が必要ということですか。

(三谷委員)

そういうことです。

(山中会長)

なるほど。大変分かりました。ありがとうございます。

それでは、続いて松永委員お願いします。

(松永委員)

株式会社ツクレボの松永です。僕は、起業家支援の徳島イノベーションベースの運営の責任者になっているんですけども、少しその起業家支援・起業支援というところにフォーカスをあててお話をさせていただけたらと思うんですけども。今ですね、メディアドゥの藤田社長と阿波銀行さん、徳島大正銀行さん、四国放送さん、徳島新聞さん、この5社が力を合わせて一般社団法人を形成して、徳島イノベーションベースの運営を行っております。これからですね、地方の経済を発展させる上で、この起業支援・起業家支援というのは大きなテーマというかポイントになるんじゃないかなと思っています。と言いますのも、就職だけではなくて、選択肢として起業していくと、色々なお店が生まれるかもしれない、会社が生まれるかもしれない、そうして色々な社長や起業家が増えていくことで雇用が生まれていくかもしれないといった色々な可能性を秘めていると思っています。それで、僕と藤田さんがそのビジョンが似てたので、一緒にやろうということになったんですけども、今、稼働してから約半年で、こんなにも起業したいと考える学生や若者であったり、あるいは、これから退職をして第2の人生をどうしようかという考える方も、結構来られているということが分かって、こんなにも起業にみんな皆さん関心があるんだなというのを、今気付いているというところがありまして。また一方ではですね、この徳島から生まれた徳島イノベーションベースに対して、実は東京、大阪などの都心部から、わざわざ参加したいと言ってきてるような学生もいるんですけども。それほど今、田舎の学生がですね、都会に憧れて出ていきますけれども、逆に今徳島イノベーションベースが生まれたことで、都会の学生が羨むものが、今生まれ始めようとしているというのが事実上です。そして、今徳島イノベーションベースが、岩手を始め、構想で全国13都道府

県に広がり始めていて、おそらく今後、それはもっと加速していくと思ってるんですけども、おそらく起業家を生みたい自治体、あるいは起業家を支援・応援したい起業家の方がそれだけいるっていうのも分かってきたというところで、県の施策としても、起業支援を当然やっていただけてますけれども、県外の企業を誘致するというところも一方で素晴らしいんですけども、今徳島から、徳島モデルとでも言えるような起業支援・起業家支援のものを発信していくことで、今度は今、移住が流れになってますけれども、起業するなら徳島に行こうという流れが作れるんじゃないかと僕は思ってますので、そういったところも徳島県として、また是非一緒に取り組んでいただいたり、考えていただけたら嬉しいなと思っております。以上です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。大変心強いような、関心層が多いのが大変良いと思います。私どもの学生も色々と進めておまして、就職という言葉を使わずに、徳島で働けと言っていますので、職に就くのではなくて、自分で作れというようなところで、言いたいと思っておりますので、またご支援よろしくお願い致します。

それでは、宮本委員お願いします。

(宮本委員)

徳島県女性教育連盟の宮本と申します。新型コロナウイルスの感染状況により、これまで当たり前のようになされてきた教育活動が中止、延期、縮減となり、本当に大きく動かされる中で、厳しい判断、難しい対応が求められてきた一年だったと思います。そのような状況下、先程お話にもありましたが、子育てとの両立、あるいは介護との両立を図りながら女性が、いかに自己実現をしていくか、社会や職場がそれをどのように支えていくかということが本当に問われ、課題が浮き彫りになった一年でないかと思えます。「未知への挑戦」とくしま行動計画にあります、多様性ということが、その解決に向けて、大事にされるべき点ではないかと考えております。サテライトオフィス、テレワーク、働き方改革の中で、多様な働き方が尊重され認め合える。あるいは、今、先陣をきり行われておりますデュアルスクール、GIGAスクール、県立しらさぎ中学校といったリカレントスクール、そういった多様な学びが尊重されるということが非常に大事になってくるのではないかと思います。多様な働き方あるいは多様な学び方というものが、一層推進されていきますようお願い申し上げたいと思います。また、教育の場におきましても、多様性に対する感性を養う教育の充実に、私自身も一層心がけたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。大変重要なキーワード、多様性というのを、これをちゃんと進めていくのは大変だと思います。是非考えたいと思っております。大学も多様性が勝負だと思っておりますので。次に、松崎委員お願いします。

(松崎委員)

NPO法人子育て支援ネットワークとくしまの松崎です。よろしくお願ひします。3点お話をさせていただきます。

先程からお話も出てるんですけども、高齢者の方のICT活用の場というか、それを学べる場を増やして欲しいなと思います。私達のスタッフが、今13名いるんですが、その中の5名が親御さんが入院していて、やはり面会が限定されている人数制限、それから面会時間が10分だけと言われることで、残念ながら5人の中で2人の親御さんが亡くなりました。亡くなる寸前にも、やはり10分、15分という時間を守らなくてはいけなかったというのがすごく辛いということでした。また、最近ようやく施設の方がタブレットを使って、窓越しですけれども面会できるように、病院や施設の方が頑張っておられるのですが、やはり通常の業務をしながらなので、予約制ということで、少し待たないといけならしいです。それで看護師さんにもお世話になりますし、お母さんとかお父さんとタブレットでお話するのですが、やはり横でずっと病院の関係者の方が待ってくださっているんで、込み入って「元気で？」とか、家のことも聞きたくても聞けないというのがあるので、なにかよそゆきの声のお母さんだったという報告もありました。私も今、母が90歳になるんですけども、ガラケーを持っていますので、元気な間に早く個人で顔が見れてお話ができるようにということで、近々スマホに変えようと言っているところです。また、私達、籠屋町商店街で、子育てほっとスペースすきっぷを運営させていただいているんですが、最近大きなスーパーも無くなってから、本当に人が少なくなったんですが、ただ高齢の方がたくさんいらっしゃいます。すきっぷと県から委託させていただいているすぎの子木育広場すきっぷの森もつくの大家さんも高齢の方なんですけども、最近旦那さんが入院されて高齡の奥様が一人暮らしです。毎日のようにすきっぷやもつくに来てくださるんですが、中に入ることをコロナ禍なので遠慮されます。赤ちゃんの顔見たら笑顔になるわと言ってくさるんですけど、すごく遠慮されます。でも、すきっぷともつくの外で私と出会った時は、手を握って泣かれています。旦那さんがいないことへの不安、それからテレビをつけると、コロナ禍で感染者数が上がって、亡くなったというニュースを聞くと、心が滅入って本当に気が変になる、生きてても仕方ないという、そういった商店街の方もいらっしゃるんで、早くから高齢者の方のICT活用、元気な間に学べて、それから施設入った時に、自分の力で家族と連絡とれたらいいなと思います。

次に、アクティブシニアということで徳島県では力を入れてくださっていて、すきっぷの方にも、80代や90代の方がボランティアですと来てくださったんですが、ご本人はそういう知識と能力も経験もあるので、すきっぷで子育て支援することをとても喜んでらっしゃるんですが、ご家族の方が反対されます。すきっぷのスタッフに迷惑かけないとか、お弁当を持って月に1回来てくださった85歳のおばあさまも、やはり来られなくなったはご家族の反対です。頑張ろうとしても、家族がいい加減にしてであるとか、世間体が悪いとか、歳をとっていつまでもそんなとこにいかれん、みんなに迷惑かけるといった反対があるんですよね。でも、本当にいきいきと活動されるというか、提言書の6ページには、「健康で活動的に頑張っている高齢者に対して、表彰や感謝状の贈呈を行い・・・」と記載があるんですけども、子育てに特化して、就業だけではなくてボランティアでも活躍される、葉っぱビジネスのおばあさまではないですけども、元気で頑張っているお母さんに対して顕彰していくとか、表彰もしくは感謝状を出すということをしていた

だきたいなと思います。歳をとっていても、社会につながってることが、ご本人にとっても、若い世代にとってもすごくいいんだっていうことを、ご家族の方に伝えていただきたいなと思っております。

最後に、魅力度ランキングは、以前は、米津さんのおかげで44位になっていたんですが、今は46位です。私達県民を挙げて、例えばフェイスブック、インスタ等のSNSで使ったりであるとか、色んな場面で徳島っていいんだよ、徳島の魅力発見という言葉で最初に頭に付けて発信するとか、皆が努力して、それに向かっていきたいなと思ってます。一人で楽しいんじゃないくて、皆で挙げて、魅力度ランキング、徳島をもっと皆さんに知っていただけたらいいなと思っております。以上です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。色んな提言いただきました。高齢者というか、僕も高齢者なんですけど、実際退職してすぐくらいの方はプレミアム世代などといって、本当に使い倒した方がいいよと言われるような世代ですので。そういう人達に色んな機会を与えていくっていうことは、大変重要なご指摘だと思ってお聞きました。はい。西部総合県民局で誰か手を挙げていただいている方がいます。どうぞ。

(来田委員)

私は月に1度、子ども達に無料で食事を提供する子ども食堂をやっておりまして、民間を通じた子育て支援活動に対する行政の関わり方について意見させていただきます。毎回、阿波市の地域でも、月1回、子どもと親と合わせて50人くらいの利用があります。その多くは仕事帰りにお母さんが子どもを連れてきて食事をするというパターンが多いです。私が運営している子ども食堂では、まちづくりの一環として、子どもと地域の人々との交流の場として活動しているんですが、利用者からは帰って晩ご飯作らなくても済むであるとか、子どもとゆっくり食事ができるといった感想がすごく多いです。私は移住者なのですが、徳島県は共働きの家庭がとて多くて、地域のこのような子ども食堂であるとか、親が働いている間の見守りの場が広がったらいいと思っています。

現在、行政の子育て支援の取り組みは、保育サービスを広げて、母親の行動支援が主になっていて、子どもの食事のことや見守りについては、行政だけでは補えない部分が出てくると思います。全国で見ると、県によっては地域住民などの民間主体のこうした活動が広がっているところもあるのですが、やはり行政の何かしらの後押しがあって、実現していると聞いています。私は運営を始めて3年目になるんですが、なかなか県内のこうした活動というのは広がらず、やはり保健所の許可や場所の提供などの問題があって、行政の後押しがどうしても重要ではないかと感じています。今、私が住んでいる地域でも、子ども会がなくなったりであるとか、やはりコロナの影響で御神輿がなくなったりなど、子どもと地域のつながりがどんどん崩れていることを感じていて、こうしたことが、若者の人口流出に繋がっているのではないかと感じています。徳島には、地域愛が強い人達方がとて多くいて、その人達を中心にまちづくりなど地域活動をしていて、このような民間の活動にも行政が積極的に関わって頂けると、地域の活力にも繋がって、子育て支援の充実も図れるのではないかと感じています。

私も子どもが熱を出した時に、保健所に病院を聞くよりも、近所の人に聞いて、病院を教えてもらったり、近所の方がみかんやジュースなどを持ってきてくれたり、地域との繋がりの温かさを徳島に来て感じました。ですので、行政サービスの充実と同じくらい、地域の人々同士のつながりが大事だと思うので、是非そうした支援をお願いしたいです。よろしくをお願いします。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。大変重要な視点、いくつかお話いただきました。おっしゃるように大変重要な取り組みだと思いますので、是非支援とか何かオーソライズしていくような、皆でこう支えていくような全体の流れだと思うんですよね。マスコミの力とかも、そういうのも大変重要だと思いますし、そういう形で是非協力体制が取れたらなと思しますので、そういうネットワークづくりに県も頑張ってくださいといいのかなと感じました。

次に、南部総合県民局から青木委員をお願いします。

(青木委員)

私からは、大きな点で2点発言させていただきます。まず1点目は、総合計画のPDCAサイクルに基づいて、県政運営評価戦略会議でしっかりと提言書をまとめて頂いており、その提言書の11ページの(4)総括的、総合的な意見のオについてです。皆さんの意見を伺っておりますと「コロナ禍、コロナ禍」です。しかし、コロナ禍においても、やはり県の政策については、「県民に向け、具体的に分かりやすい形で『見える化』し、あらゆる機会を通して周知を徹底してもらいたい」との提言がされています。コロナ禍であっても、この総合計画、やはり県民第一に見える化をして、しっかりと推進していく、それが1番大事だと力強く申し上げておきます。また、後日「未知への挑戦」推進部会でも報告をさせていただきますが、先般11月5日には飯泉知事も出席され、城東高校で対話集会「新未来セッションNEO・2020」が開催されました。やはり若い世代に対しても施策の見える化、また意見を聞いて反映できる計画こそが、未来ある徳島の総合計画であると信じておりますので、どうかその点、お忘れの無いようしっかりと取り組んで頂きたいと考えております。以上、1点目です。

2点目は、やはり次の4年の計画の中にもっと入れて欲しいなという点について、発言させていただきます。実は、菅政権に変わって、総務省の方でも、役所に行かなくてもあらゆる手続きができる施策を掲げております。つまり、スマート自治体です。やはりこれをどんどん推進する必要性が私はあるというように考えております。行財政改革・行政改革の中でも、コロナ禍にあっても、やはり進めるべきだろうと考えてございます。特に、私個人的な意見としても、「はんこ、はんこ」と言われておりますけれど、はんこに変わる手段として、マイナンバーカード。マイナンバーカードを推進して、それにQRコードをくっつけてですね、決裁ができる形とか、新たな手法を県民に提供する前に、しっかりと実証実験として徳島県がやっていく、そして最後徳島から全国に持って行くような、そういった新しい手法で行政のデジタル化を推進して欲しいなと思っております。それで、スマート自治体といった点で、4年間の計画にも盛り込むべきところは、盛り込んで頂きたい

など考えております。

どうぞこの2点、しっかりと進めていただければと思っております。

最後に1点だけ、阿南庁舎では音声が少し小さいです。その辺は少し改善が必要だと考えております。以上です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。見える化をちゃんと進めていただきたいということと、デジタル改革を進めるってということについて、計画の中に入れていただきたいというご指摘でした。

続いて、瀬尾委員をお願いします。

(瀬尾委員)

NPO法人協働プランニングNIMSの瀬尾と申します。行動計画のターゲット1重点戦略4の中に『男女共同参画立県とくしま』の飛躍と「DV・性暴力対策の推進」がございます。私、DV被害者支援をやっておりまして、エンゼルランプの運営を行っております。来年の9月24日と25日に、全国シェルターシンポジウムをあわぎんホールで実施することが決定しております。徳島県はDV被害者支援、すごく進んでおります。「白鳥の森」というシェルターもできまして、民間シェルターが2つあり、全国的にも非常にDV被害者支援が進んでおります。それで、徳島県に何百人か来てくれると思うんですが、それと同時にZoomでのウェブ会議も並行して行いたいと考えております。これからはコロナと共にとということで、やはりこうやって生の皆さんの意見聞くと、非常に刺激受けますので、実際に来てくれる人と、どうしても来れない、今日でしたら南部や西部がリモートでつながる、そういった形の会議を進めていくと良いのではないかなと思います。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。そうですね。このハイブリッド型の会議をもう少しうまくやる方法を、こういったリアルな会議とリモート会議をうまくやれる方法をですね、これからは是非やっていきたいなと思ってます。

近森委員、お願いします。

(近森委員)

徳島県青年国際交流機構の近森です。肩書きからも分かるように、私達の団体は、国際交流をするということで、内閣府が主催しております青年国際交流事業の既参加青年で組織している団体なんですけども、ご承知のとおり、コロナの影響で全ての事業が今回中止になりました。私達の参加していた事業というのは、国外から青年に来ていただいてそこで交流し、また私達も一緒に現地に行くという、まさしく本当に会って人と交流をして、グローバルな人材、ネットワークを作ろうというものでしたので、本当にこのコロナ禍において、事業が本当に止まってしまったってということで、私達もショックを受けました。けれども、会うということが当たり前だったところから、やはりマインドチェンジしないといけないというところもありまして、実は今週末にも全国大会が熊本の方で開か

れる予定になっております。少し話はずれますが、私が個人的に参加したオンラインのセミナーがあるんですが、そちらでも参加者が2,000名ほどいらっちゃって、オンラインがすごく身近になってますけれども、実数で見ると、本当に変わってきたというのが印象でした。ということで、私達の事業もそうなんですけども、県の中におきましてもインバウンドの事業でしたり、グローバル人材の育成のところでしたり、事業自体が止まってしまうこともあったかと思えます。優先順位も、もちろんあるかと思うんですけども、降り止まない雨はないという言葉もありますように、やがてポストコロナの時代が訪れると思います。その時に前の時代といいますか、オンラインはなかった、まだまだ知らなかったといったような状況に戻るのではなくて、オンラインと実際会うという、今皆さんのお話を聞いていてもすごく貴重だなと思うんですけども、この重要さというのを再度認識した上で、中止になってしまった事業もあるかと思うんですけども、引き続き何年かかるか分からないんですけども、それに向けて事業がなくなってしまうというよりは、何か別の方法で小さくても結構ですので継続していただければと思います。私自身のアイデアとしては、まだまだオンラインぐらいかなという気はするんですけども、是非そういうところも県政の中に入れていただければと思います。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。そうですね、国際交流はおそらく絶対復活すると思います。僕の知り合いの中でも、とにかく行けるようになったら行きたいという人がたくさんいまして、おそらく逆に今押さえつけられているような状態なので、もっと爆発的に増える、カムバックしてくるのではないかなと思ってますので、是非その時に向けてですね、やはり対応を考えておくということも重要だと思いますので、よろしくお願いします。

続いて、井上委員お願いします。

(井上委員)

牟岐町でむぎ青空プロジェクトという自然体験活動を運営している井上と申します。観光業をメインに事業を行っており、普段は県外からのお客様が多かったのですが、今年はコロナの影響で、逆に県内のお客様に非常に多くお越し頂きました。徳島市内など県内のお客様にお越し頂くことで、県民の方に新たに県南の魅力を伝えることができたのではないかと考えています。

つまり、コロナの影響で観光業がダメージを受けていて、県南部地域は県外客が多い地域になるので、特にダメージが大きかったのですが、アウトプットとインプットに例えると、今は徳島県民の方に徳島県の魅力を感じてもらおうインプットの期間と考えて、非常に有効な期間であると考えています。また、やはり近い場所ということで、日帰りの修学旅行生が多かったようで、兵庫からであるとか、普段は来ないところから集客があったということです。コロナで大変な部分はあるんですが、逆に普段来ないような場所から集客ができるというメリットが非常にあるので、今は大変苦しい時期ではあるんですが、普段は来ないような県内のお客様に対して、徳島県の魅力を有効的に伝えるということが、場合によっては、非常に有効的な時間ではないかと考えています。

ですので、コロナはすぐには収束しないとは思いますが、コロナ収束以降のことを考

えて、今は県内の人たちに対して、Web会議ツールなどのオンラインを活用して魅力を伝えていけるような場づくりを進めてはどうかと考えています。

(山中会長)

井上さん、申し訳ないですが、時間になりましたので、ここで終了とさせていただきます。今は、インプットの時期で頑張っていく時だというのは、大変重要な指摘だと思います。最後に知事から、一言いただいてよろしいですか。

(飯泉知事)

いくつか、逆に状況をお話しておいた方がいい点がありますし、またお1人の発言が他の方への答えになる部分もありますので、何点かお答えをして、私からの総括とさせていただきます。

まず、高橋委員さんと林委員さんから、いわゆる子どもさん達、あるいは障がい者の皆さん方に対しての、いわゆるICT、デジタル化の話がありました。そこで、今、GIGAスクールは、これ公立の小中が対象になっているんですね。だから私学、高校あるいは特別支援学校高等部は対象外となっているところではありますが、徳島県においてはこれらを全て包含をするという形で、例えば特別支援学校の高等部、また高等学校、さらには私学、これらを全て対象にという形で林委員も言われたように、若いうちからしっかりとDXに慣れる、まさにデジタルデバインド。特に、高齢者の皆さん方のお話、ここは松崎委員の方からお話がありまして、その前に小谷委員さんから面会のお話がありました。このコロナ禍において、今言われた点、本当はそうありたいところなんです、高齢者の皆さん方にうつると、もう既に107人発生をした8月を思い返していただきたいんですが、高齢者施設2つでクラスターがでた。あるところは、それが病院に飛び火をしてしまったということもありました。また、例えば、昼カラオケ、ここもほとんどが高齢者の皆さんがご活用されたんですね。こうしたことから、病院においても、もう面会はなかなか厳しい、また施設においても、面会そのものをやめよう。しかし、先程お話が出たように、それはあまりにもということで、何とかオンラインでやろう、例えば施設まで行くんですけど、その施設の中といいますかね、生活空間には行けないんですが、そこをタブレット型端末で、確かに松崎委員さんも言われたみたいに、隣に職員の方がおられるか、「えっ、いじめられてない？」なんてことを聞くのはなかなかせこいというのはね、これはもう全国的にも指摘はされているんですが、少しこれは特効薬であるとか、ワクチンがしっかりとできて、ウィズではなくて、アフターコロナ、この時代になると、ようやく面会も解禁になってくる、そして先程、手を握って、ここもせこいとこなんです、なかなか今握手が出来ないということもあります。接触感染ということがありますから、やはりこれらは全て高齢者の皆さん方を守ると、こうした観点からの措置であるということは、是非ご理解をいただき、そして特効薬、ワクチン、こうしたものが出来上がったあかつきに、そこが少し緩和をされると。こういうものだとお考えをいただければと思います。

また、松崎委員さんから、高齢者の皆様方ということで、なるべくタブレット型端末とか使いやすいうように、できればスマホをと。この講座については、シルバー大学校、あるいは大学院、ICT講座が非常に充実をしております。ただ今年、直接のリアルの講座が

できないという、特に高齢者の皆さん方から、怖いわってという話がありましてね。我々は何とか新しい生活様式でやろうとはしたんですが、皆さん「今年はええ」ということになってるということを是非ご理解をいただければと思います。また、アクティブシニアに対しての顕彰制度、既にこれは県として頑張る高齢者の皆さん方の顕彰制度をご用意しておりますので、そうしたところの対象に、例えば保育、こちらを行っていただく皆さん方とか、こうした点は、福祉の方でしっかりとカバーをしていければと考えております。

また、魅力度ランキングの上げ方について、ありがとうございます。私もそのように記者会見で申し上げたところで、例えば米津玄師さんが徳島出身であるとか、鬼滅の刃を配給している会社が、徳島の会社であるとか、こうしたことは全然知られていないということがありますので、それらのファンだという皆さん方は「あれは徳島よ。」と、是非おっしゃっていただく、タイタニックもとうとう抜いたようでもありますので、あとは千と千尋の神隠しだけとなったところでもありますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

そして、松永委員さんと、さらには渡邊委員さんから移住促進の話がありました。まず、松永委員さんのT I B、こちらについては実は藤田社長さんとも連携をして、平成成長久館、この中の講座で、という形を採って、県内に、また起業家を目指す県内の若い人達に、起業するなら徳島で、という形で今進めておりますので、逆に移住をされてる、来られる、先程全国の皆さん方が徳島で起業、「ほれだったらしたい」という話がありますので、例えば今どこかで勤めておられて、徳島で仕事をしたいという場合には、移住促進のためのそうした支援、リスタート徳島事業、例えば引っ越し代であれば20万、また、大学院入り直したいという場合であれば、入学金も入れて50万支援と様々な制度もこれから拡充していければと思いますので。また、ご提言をいただくとともに、我々としてもよりそうしたものを、ネットなどでもお出しをしていければと考えております。

こうした形で、皆さん方からいただく中で、やはり新しい形、これをということで。井上さんが最後のところでもお話を、また近森さんも、多くの皆さん方が、このリアルとそれからオンラインとをセットで、もっともっとやった方がいいんじゃないか。瀬尾さんからは、全国シェルターシンポジウムのお話もいただいたところであります。実は1つの新しい形として、11月4日に行ったものがあります。本来でしたら、消費者政策国際会合、昨年G20、日本初開催を徳島でやって、翌年つまり今年、11月4日に全国全世界のシンポジウムを徳島でやる予定だったんですね。でもこの状態となりましたので、アメリカ、イギリス、フランス、そしてオーストラリア、フィリピン。そのエシカルリーダーの皆様方は、独自に取材で録画をして、また、日本の中原先生と対談をすると、こうしたものを映像でしたためる。また、リアルでそうしたものを撮った部分もありまして、それを1つ、オンデマンドという形、つまりリアルとそしてオンラインとを合わせて、それをしかも映像にしたためて、4K動画で流していく。しかも、オンデマンドですから、例えば11月4日クレメントに、来れてない人もいつでもアクセスができる。だから、時の利も得るといって新しくなってますので、是非これからは新しい形といったもの、ニューノーマルと我々呼んでおりますが、そうしたものをどんどん発案をしていただいて、我々はあと技術的な点でそれを可能にしていく。青木委員の方からも、マイナンバーカード、これをうまく活用して様々な手続き、これをという話で。まさに我々はそれを考え、今マイ

ナンバーの地方のヘッドクォーターは、実は私が務めておりまして、明日も平井大臣と協議をしていこうかと言っているところでもあります。そうした意味では、この公的個人認証こうしたものを、また非接触型で対応していくという新しい形、もっと言うとマイナンバーカードをもうスマホの中に入れこんでいこうと、1つだけ技術的な難所があつて、それを今解決中でもありますので、それを解決すれば、スマホを1つ持っていただければ、もうカードを持たなくてもいい。つまりマイナンバーカードの中に来年の3月からは健康保険証、その先には運転免許証もこの中に入れこんでいくこととしておりますので、我々としては国とともに、このデジタル化ということではなくて、デジタル社会をつくっていく。何となくデジタル化というと、上からこうするんだ、これに慣れなさいという形なんです。そうことではなくて、やはり例えば高齢者の皆さん方、また障がい者の皆さん方、また低所得者の皆様方にとっても使いやすい、そうしたデジタル社会をつくるんだと。デジタルデバイドとよくいわれますが、情報格差ですね、地理的な条件の格差ばかり言われるんですが、実はヒューマンインターフェースという、人との間のその格差をやはり直さなければならない。これも全国知事会から既に国に提言をし、そのためには、この新しい基盤といったものが、ユニバーサル化、つまり、今ユニバーサルサービスとなっているのは、固定電話、それからテレビ。携帯電話は違うんですね、だから不感地帯がある。それはしょうがないというのが、今、国の方針。しかし、今回のこのデジタル社会の構築については、その基盤といったものを、今いったような人達も誰1人取り残さない、そうしたデジタル社会をつくると、ユニバーサルサービス化をすべきだと、今総務大臣もそういうような言葉になってきたところでもありますので、今日いただいた点については、しっかりとそしてこれを徳島から発信をさらにしていく形、また徳島からの提言は、同時に全国知事会からの提言にもなっておりますので、総理はじめ関係の皆さん方にもしっかりとお伝えをしていきたいと思っております。

(山中会長)

ここで、本日、ご欠席の藍原理津子委員から、事前に文書で意見をいただいているとのことですので、事務局から報告をお願いします。

(事務局)

藍原委員からは、リカレント教育について、子どもの学びにアクティブシニアの活用をというようなご意見を頂いております。特に新型コロナウイルスの感染が終息していない中、シニアの方々の活躍の場がなかなか難しいという状況ではあるんですが、さらなる活躍の場を作っていくべく、感染予防対策を実施している適切な場所や施設でどんどん活躍できる機会を提供してはどうかというご意見でございます。

2点目が充実した学びの推進ということで、子どもたちが、得た知識を活用する能力が低いのではないかということを実感されておるようで、そこで実際に県内の科学館や博物館との連携により、上手くリアルやオンラインなどを取り入れながら取り組んではどうかというようなご意見を頂いております。

最後に、県内の子どもの体力低下についても、ご意見を頂いております、運営を担われているあすたむランドでは、最近では子どもが転んでも手をつくことができないケース

が見られるようになり懸念をしているということで、体力が増強できるプログラムに取り組みたいということで、県の方にも体力増強を図る仕組みづくりを考えてみてはどうかというご意見を頂いております。以上でございます。

(山中会長)

ありがとうございます。様々な意見を頂戴しました。

それでは、時間がまいりましたので、これで終了とさせていただきます。2月に開催予定の次回の会議では「行動計画の改善見直し」案について御審議頂きたいと考えておりますので、是非とも建設的な、前向きなご意見・ご提言を頂けますよう、よろしく願いいたします。

本日の会議の内容について、何か補足することがございましたら、後日、事務局までご連絡をいただけたらと思います。以上で、予定していた議題については、終了いたしました。

最後に、事務局から事務的な連絡があります。

<事務局説明>

- ・会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認を頂いてから、発言者名も入れて公開したい。
- ・次回の開催日は、令和3年2月上旬を予定しているが、山中会長と相談の上、改めてご連絡させていただく。

～以上～